

はじめに

本会では今年度、平成 27 年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」事業において「学校事務職員の研修プログラムモデル及びテキスト開発」に取り組んだ。

これまで各自治体においては、学校事務職員の資質能力の向上を図るため、それぞれに工夫された研修が実施されてきたところであるが、その多くが現場で実務を遂行する上で必要な能力を身に着けることを主眼に置いて計画されてきた。

平成 14 年度に学校組織マネジメントモデルカリキュラムのテキストが開発されて以来、事務職員の研修もマネジメント能力の向上やスキルの習得のための内容へとシフトしてきている。しかし、チーム学校を推進し、学校のマネジメント機能を強化することが求められるこれからの新しい時代の学校における事務職員の役割を考えると、スキルを身に着けるだけでなく、身に着けたそのスキルを実際に活かし、校長を支え、学校マネジメントを担う事務職員を育成することが急務となっている。

今、「次世代の学校・地域」創生の実現に向け、チーム学校の実現、地域とともにある学校への転換を図るための方策が進められようとしている中、平成 28 年度から独立行政法人教員研修センターにおいて事務職員の研修も中央研修に位置付けられ、校長と同時に研修を受講することとなるなど、事務長・事務職員が学校マネジメント強化に果たす役割への期待が確実に高まってきているのは間違いない。

本会では平成 24 年度学校運営改善の在り方に関する取組「実効性の高い学校評価の推進及び学校マネジメントの体制整備に関する調査研究」において、全都道府県教育委員会、全市区町村教育委員会を対象に、学校事務職員の研修について調査を実施した。

この調査から浮き彫りになったのは、事務職員に適用されるべき人材育成プランがない自治体が多かったり、また研修体系が不十分な自治体も多く存在するなど、都道府県と市区町村における意識の違いや、自治体ごとの取組の進展状況や内容の差異といった学校事務及び事務職員にかかわる現状と課題であった。

今回の「学校事務職員の研修プログラムモデル及びテキスト開発」事業では、こうした学校事務及び事務職員にかかわる現状と課題、そしてこれまでの事務職員の研修プログラム開発等を踏まえ、事務職員のキャリア別、望まれる研修実施組織に分類し体系化を図るとともに、テキスト開発においては事務長にとって必要な資質を実際の現場でどのように対応するかを念頭においた研修の在り方を考え、学んだ知識を使う、活かすための研修として、ケースメソッドを取り入れた。

先に述べたとおり学校のマネジメント機能の強化のため、事務職員がマネジメント力を発揮することが求められている。経験値によって左右されるところも大きいですが、学校現場で起こり得る場面を想定し、いかにその能力を発揮し解決していくことができるか。ケースメソッドを用いた研修を用意することで思考が生まれ、研修での協議を通じて自らのスキルを発揮し、生かし方を学ぶことができると考える。設定された事例から、当事者としての立場で問題解決にあたる演習等を通して、学校マネジメントへの責任を自覚することが必要と考える。

本事業においては、実施体制として、天笠 茂 千葉大学教授のもと、多くの研究者の先生方等にご指導やアドバイスをいただくとともに、各教育委員会に試行研修等で協力を得ながら調査研究活動を推進した。御協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

本報告書及び研修テキストが、今後の各地での学校事務職員研修企画の一助となり、学校事務職員の資質能力の向上と学校マネジメント機能の向上のために活用されることを祈念し、発刊の言葉とする。

平成 28 年 3 月

全国公立小中学校事務職員研究会 会長 鳥本 安博